

丸岡桂

まるおか かつらぎ

歌人、謡曲研究家。明治十一年十月十七日東京生れ、

大正八年二月十一日歿（八七—一九九）。號二十、天生、小櫻、月の桂

のや、桂のや、素娥。縣知事等と務めた歌人丸岡莞爾の長男。父の學

を受け、のち落合直文の師事として淡香社同人となる。次子つひ姫百合社、

更への曙會と鎮として機關誌を發刊。明治二十六年毛丹清春、内海月杖等

とかのり黄生白藻會と創設、四十年觀世流改訂本刊行會を設け、爾後謡曲研究

に専心。大正二年雜誌「謡曲界」創刊。小説家丸岡明の父。

著書「曙集」(月の桂のや名、曙會同人春、癒合著、明治二十四年六月)、二十

七日姫百合社)、國文大觀・物語部六(狭)・古今著聞集(衣)「(松下大)

郎共編、明治二十七年一月二十一日板倉屋書店)、新訂謡曲全集全

三冊(大町桂月共校訂、上・明治四十四年七月、二十八日、中・十一月

二十八日、下・大正元年八月十八日至誠堂書店「學生文庫」)等。